論文タイトル：

水泳水中運動科学への投稿用原稿フォーマット

―副題は両端を全角ダッシュで括って和文で記す―

＊和文の場合には，最上段に和文で論文タイトルを記す．副題がある場合は両端を全角ダッシュ（ ― ）で括って和文で記す．

英語タイトル：

Manuscript Format for Japanese Journal of Sciences in Swimming and Water Exercise

-Subtitle should be Written after the Main Title with a half width dash-

＊英語による論文タイトルを記し，副題がある場合には半角ダッシュ( - )で括って記す．

著者名および所属：

水泳花子 (Suiei Hanako) 日本水泳大学

水中太郎 (Suichu Taro) 日本水中大学大学院水泳科学研究科

運動次郎 (Undo Jiro) 日本運動大学水泳学部

＊著者および共著者の氏名，氏名の英語表記，所属機関名称の順に記す．氏名の英語表記は括弧でくくり，所属機関は各著者名の後に記入する．所属機関が大学の学部の場合には，学部名も記す．大学院生の場合は在籍する研究科名も記す．

連絡先：

水泳花子

〒000-0001 東京都水泳市水中1-2-3 日本水泳大学内

Email: suiei.hanako@suichu.jp

＊投稿論文に関する問合せ先として，著者の代表者 1 名の氏名，住所， 電子メールアドレスを記す．

＊原稿作成時に赤字部分は削除して下さい。

要旨（アブストラクト）：

＊和文の原著論文は，150 ワード以内の英文要旨（ただし別に要旨の和訳を添付する)，英文による原著論文の場合には 400 字以内の和文要旨を記す．

要旨和訳（和文の原著論文の場合）：

＊和文の原著論文では，英文要旨の和訳を添付する．

キーワード：Swimming, Water, Exercise, Science

＊英文表記による2~5語以内のキーワードを挙げカンマで区切って並べる

＊原稿作成時に赤字部分は削除して下さい。

1. 緒言

論文題目（タイトル），著者名，所属機関，要旨（アブストラクト），キーワード，参考文献リスト，図表を除く原稿の文字数は 10,000 文字以内とする.

本文は横書き，平仮名，新仮名づかい，口語体とし，コンピュータ上のワードプロセッシングソフトウェアで作成する．フォントは原則として12ポイント，明朝体，Regularとし，英数文字については半角にてTimes New Romanを用いる．本文はダブルスペースにて作成し，ページ番号とページ毎の行番号を付ける．本文中の句点はピリオド，読点はカンマを使用する．本文は緒言，方法，結果，考察，利益相反，参考文献など章立てし，まとめる．

1. 方法
	1. 見出し番号

　見出し番号は，見出しの格に応じて「1.」「1.1.」「1.1.1.」の順番でつける．

* + 1. 数字

　数字は原則としてアラビア数字を用いる．

* + 1. 単位

　原則として SI 単位系（国際単位系）を用いる.

* 1. 数式

　本文中に数式を入れる場合には，数式エディタ機能を用いる．

$$A=πr^{2}$$

* 1. 記号

　文字や数式，および数字の上付き文字/下付き文字は，正しい出力を本文内に記載する．

1. 結果
	1. 記号

文字や数式，および数字の上付き文字/下付き文字は，正しい出力を本文内に記載する．

* 1. 略語

　本文中にしばしば現れるため，著者が便宜的に省略して用いる語は，初出時に略さず明記し，（以下「…」と略す）と添え書きしてから，以後，略語を用いる．

1. 考察
	1. 参照

　参照した文献は文献表に掲載する．野村・藤島1-3)によれば水泳であり，Takagi and Sanders4)によれば水中である．また，髙橋ほか5)によれば運動であり，Cohen et al.6, 7)によれば学会である．

* 1. 特殊字体

　イタリック，**太字表記**のべクトルなどは原稿にアンダーラインでも指示する．

謝辞

　謝辞がある場合は掲載が決定した後に書き加える．

利益相反

　論文に関係する利益相反の有無について明記する．

注記

注1) 注記は最小限にとどめ，該当箇所に「 注1) 」と通し番号をつける．

注2) 注記は本文と巻末の文献表の間に一括して番号順に説明事項を記載する．

参考文献

＊参考文献は，本文の最後に，本文中の引用順に列挙する．

1. 野村太郎，藤島泳（1997）水泳の研究．水泳水中運動科学．1(1)：1-10．
2. Takagi, H. and Sanders, R. (2005) Hydrodynamics makes a splash. Physics World. 13(9): 39-43.
3. 高橋繁雄，鈴木次郎（1997）水中運動．環境工学社：東京，pp.20-30．
4. Cohen, J. (1988) Statistical power analysis for the behavioral sciences (2nd Ed.). Lawrence Erlbaum: New Jersey, pp.123-142.
5. 本間三四子 (1997) シンクロの指導．日本水泳連盟(編)．大修館書店：東京，pp.130-140．
6. Franks, I. and McGarry, T. (1996) The science of race analysis. In Science and Swimming (Reilly, T. and White, B. Eds). E & FN Spon: London, pp.363-375.
7. 日本水泳・水中運動学会（2021）学会誌の執筆の手引き．日本水泳・水中運動学会Webサイト．https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jspo/guideline2.pdf，(2021年4月1日参照)．

＊原稿作成時に赤字部分は削除して下さい。

＊図表は 1 枚ずつ独立させる．図表は，文章の最後にまとめて添付する．図・表それぞれに通し番号とタイトルをつける．ただしタイトルおよび図・表中のテキスト（単位，凡例など）はすべて英語で表記する．なお，「その他」の原稿の場合は，必要に応じて日本語の表記を認めるが，英語の表記を推奨する．

＊原稿作成時に赤字部分は削除して下さい。

Fig. 1 Schematic view of the experimental devices.

Table 1 Physical characteristics of the subjects.